

星のたより

2026(令和8)年
11月号
Vol.386



☆今月の豆知識☆

(100)

年前の1926年11月21日、日本初の公開天文台

「倉敷天文台」が設立されたんだよ。当時は民衆天文台って呼び方だったみたいだけど、みんなが望遠鏡で星空を楽しめる、そんな天文台を目指して作られたんだ。鳥取出身の本田実さんは倉敷天文台で活躍した人で、たくさんの彗星や新星を発見したことで世界的に有名だよ。さじアストロパークもたくさんの人に星に親しんでもらえるよう、頑張らなくちゃね。

イベント情報



宇宙ふしぎ探検「公開天文台 100 周年記念

全国一斉観察会 太陽系マラソン

日時： 11月21日(土)①11:15~12:15 ②20:00~20:50

参加費：一般(高校生以上)600円、小中学生200円、幼児無料

定員：40人(予約が必要です)

公開天文台 100 周年を記念して、太陽系の天体をたくさん観察します。水星と金星は昼に観察しますので、お気を付けください。観察の様子はYouTubeでもご覧いただけます。



☆期間展示☆

さじアストロパークコレクションシリーズ②「メシエ天体」

日時：6月17日(水)~12月6日(日)まで

場所：さじアストロパーク

1994年7月オープン以降これまで、さじアストロパークが記録した星や天文現象の写真展示の第2弾。「メシエ天体」の写真と解説とともに展示します。

M45 プレアデス星団 (すばる)

★★★★今月の開館情報★★★★

2026年11月

開館時間 10:00~17:15 (土~21:00)

夜間予約 19:00~21:00 観察会20:00~

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	2 休	3	4 休	5	6	7
8	9 休	10	11	12	13	14
15	16 休	17 休	18	19	20	21 特別イベント
22	23	24 休	25	26	27	28
29	30 休	1	2	3	4	5

6 7 今月のイチオシ

公開天文台100周年

夜の観察会
やってます

夜の観察会
予約OK

※イベント・天候などにより変更することがあります。
最新情報はHPをチェック

☆出前観察会☆

月とすばるの接近

日時：11月24日(火)17:30~20:30

場所：鳥取市役所7階展望ロビー

定員：25名(予約が必要です)

「すばる」は、枕草子にも登場する古くから注目されていた星団です。すばると月が接近して見える様子を、望遠鏡で観察します。

さじアストロパーク・佐治天文台

〒689-1312 鳥取市佐治町高山 1071-1

TEL 0858-89-1011 FAX 0858-88-0103

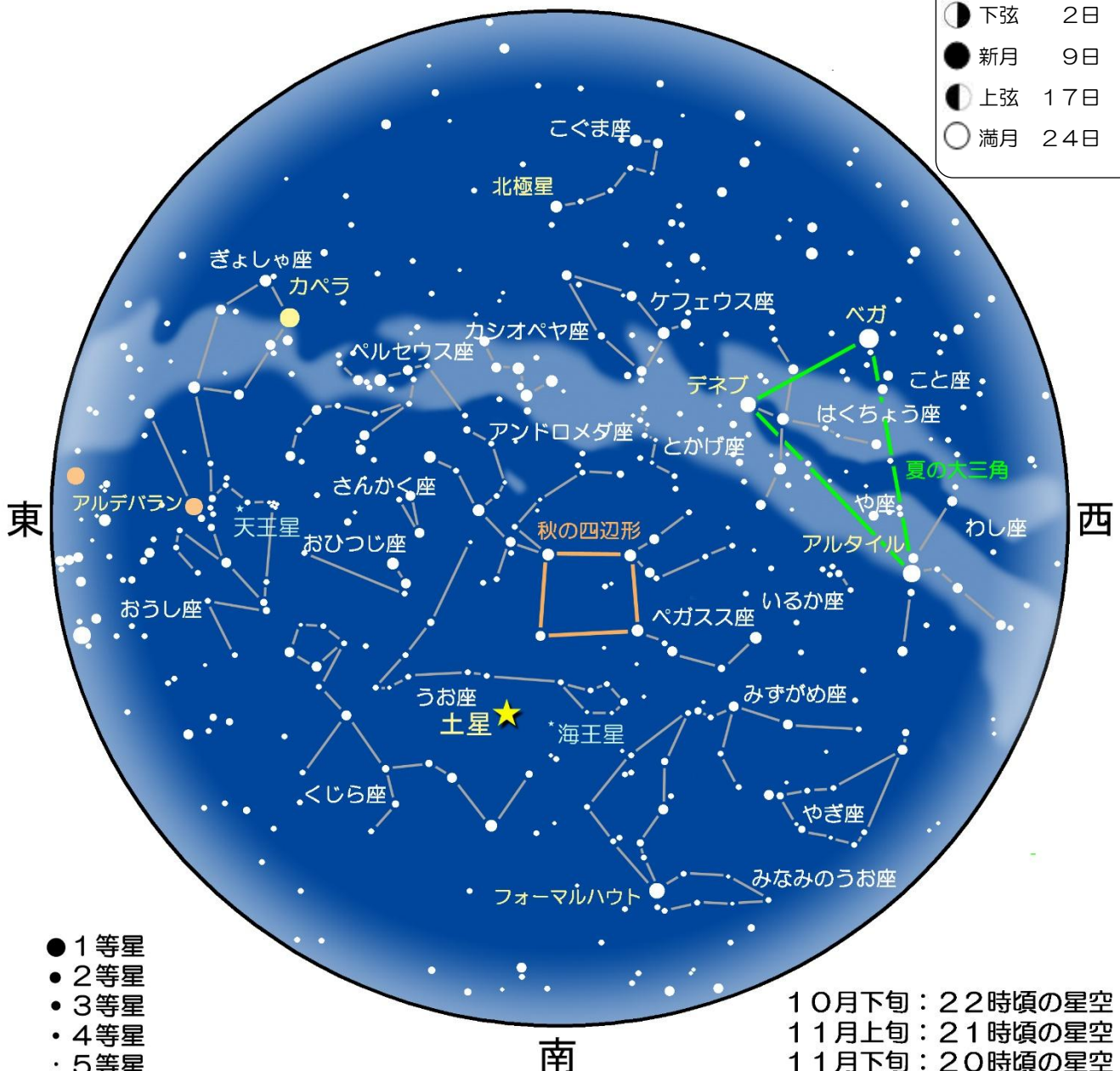
e-mail sj-astro@city.tottori.lg.jp

2026 年 11 月の星空

北

今月の月の暦

- | | | |
|---|----|-----|
|  | 下弦 | 2日 |
|  | 新月 | 9日 |
|  | 上弦 | 17日 |
|  | 満月 | 24日 |



- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- 5等星

10月下旬：22時頃の星空
11月上旬：21時頃の星空
11月下旬：20時頃の星空

☆夜の時間が長くなり、ずいぶんと寒くなってきました。特に 中 旬 以降は寒さが厳しくなってきました。暖 かい服装で星空を楽しみましょう。

☆西の空には「夏の^{なつ}大三角」がまだ何とか見えています。天の川の目印になりますので、確かめておきましょう。頭の^{あたま}真上^{まうえ}には「秋の^{あき}四^し辺^{へん}形^{けい}」が見えています。1等星よりも少し暗い2等星と3等星ですが、今年^{ことし}は近^{ちか}くに土星^{どせい}が見えていますので目印になるでしょう。秋の四^し辺^{へん}形^{けい}から「アンドロメダ座」「カシオペア座」と北^{きた}にたどってみましょう。カシオペア座がわかれば、「北^{ほっきょくせい}極星」も見つけることができます。東^{ひがし}の空には、早^{はや}くも冬^{ふゆ}の星^{ほし}たちが昇^{のぼ}ってきました。真東^{まひがし}の「おうし座」と北東^{ほくとう}の「ぎょしゃ座」には、どちらも1等星がありますので、見つけやすいでしょう。

**フラネタリウムや観覧会の時間、
休館日、宿泊の予約など最新情報は、
ホームページ&YouTube
各種 SNS(X、Facebook、インスタ)
をチェック** 



発行:さじアストロパーク 鳥取市佐治町高山 1071-1

11月 やかんかんぼうかい てんたいかんさつかい 夜間観望会(天体観察会) 103cm 大型望遠鏡で観察

下の表の左側はテーマ天体。テーマ天体以外に観察時間内にいろいろな見ごろ天体を観察します。気になる天体があればリクエストしてください。

アンドロメダ銀河 M31	1日(日)、7日(土)、14日(土)
月、土星、天王星、海王星 ★公開天文台 100周年記念一斉観察会	21日(土)
土星	22日(日)
星の集まりすばる	28日(土)、29日(日)
観望会で月がよく見える	18日(水)～22日(日)
観望会で満天の星が楽しめる	1日(日)、3日(火、祝)、5日(木)～8日(日) 10日(火)～14日(土)、28日(土)、29日(日)



こんな天体が見ごろです — 土星、アンドロメダ銀河

土星

種 類：惑星
星 座：くじら座の所
あか 明るさ：0.3等
きよ 距 離：—

環のある惑星の土星、太陽系の惑星の中では一番人気です。2025年に土星の環の消失が起きましたが、再び環が見えるようになってきました。環のある土星を観察してください。



すばる

種 類：散開星団
星 座：おうし座
あか 明るさ：3等
きよ 距 離：410光年



おうし座にある散開星団の「すばる」です。「プレアデス星団」「M45」とも呼ばれています。日没後の東の空にゴチャゴチャと星が固まっているのが見えます。視力の良い人なら肉眼でも星が6～7個の星の集まりであることがわかります。双眼鏡での観察がオススメ。「すばる」は和名で、車のメーカー名、ハワイにある望遠鏡の名前、歌にもなっています。

M31

種 類：銀河
星 座：アンドロメダ座
あか 明るさ：4.4等
きよ 距 離：250万光年

銀河の中では一番のおススメ「M31」です。

アンドロメダ座にあるので「アンドロメダ銀河」とも呼ばれています。

星がたくさん見えるところでは肉眼でも存在がわかります。観察には双眼鏡や低倍率の望遠鏡での観察がオススメです。私たちの天の川銀河から250万光年離れた場所にあります。

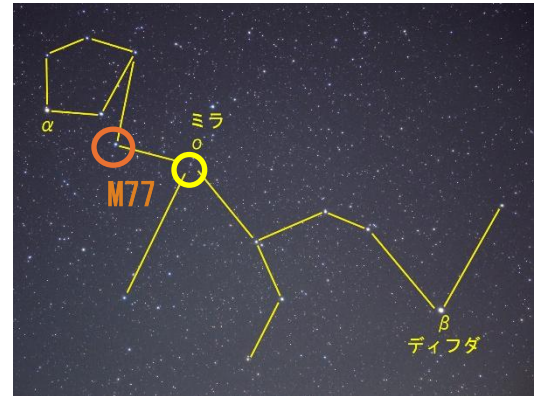


こんげつ 今月のイチョシ星座

み 見つけ方 ★★★★★★★★★★

1 1月の夜8時～9時ころ 南の空を見上げ、明るい星を4つ見つけて大きな四角形を作ってください。これが「秋の四辺形」で、その左上の星から左下の星をたどり、延長したところにくじら座の尻尾のあたりにある2等星「ディフダ」があります。明るい星が少ないですが立派な姿をしているので、星図や星座早見などを使って星座の形をたどってみましょう。

くじら座



せいざ ゆらい しんわ 星座の由来・神話 ★★★★★★★★★★

ギリシャ神話では海神ポセイドンに仕える化けクジラです。ペルセウスの冒険の中にアンドロメダ姫の物語があり、その中ではポセイドンの命令で古代エチオピアの街を襲う化けクジラとして登場します。生贄となり海岸の岩にくくりつけられたアンドロメダ姫に襲い掛かろうとした時に、通りかかったペルセウスによって退治されてしまいました。海神ポセイドンの命令に従っただけなのに退治されてしまったある意味かわいそうな化けクジラです。



アンティーク星図に描かれたくじら座

おも てんたい 主な天体 ★★★★★★★★★★

★ミラ (変光星・恒星)

明るい時は2等から暗い時は10等へと331日の周期で明るさを変える変光星です。ミラとは「不思議な星」という意味で、暗い時は目では見えなくなります。

★銀河「M77」

くじら座唯一のメシエ天体「M77」です。分類としては「銀河」となります。5140万光年の距離のところにあり遠いので小さくしか見えませんが実際は直径17万光年の巨大銀河です。メシエ天体となっていますがメシエの助手であるメシャンが発見した天体です。



ここに注目!

イチョシ ポイント!

変光星「ミラ」の明るさの変化はすぐにはわかりませんが期間を明けて観察したり、デジタルカメラなどがある場合はくじら座を撮影して変化を追うのが良いでしょう。

プラネタリウムのおしらせ ★★★★★★★★★★★★★★★★★★

ばんぐみ デジタル番組 「星と出会う日々～本田実物語～」

投影期間は令和8年11月18日(水)～令和9年3月14日(日)



ほしであひび

星と出会う日々

～本田実物語～

鳥取県出身の本田実さんは、岡山県の倉敷天文台で活躍され、生涯に新彗星12個、新星11個を発見した偉大な先人です（新彗星の発見は、当時のアマチュア天文家としては世界一の記録）。今回のプラネタリウムでは、本田実さんの生涯を振り返ります。（この番組は2000年に制作したものを、4Kデジタル番組に作り直したものです）

リバイバル上映

投影期間：2026(R8)年 11月18日(水)
～ 2027(R9)年 3月14日(日)

第1部：専門職員による「今夜の星空生解説」
第2部：オリジナル番組「星と出会う日々」



こうかいてんもんだい しゅうねん あ にほんこくないさいしょ こうかいてんもんだい くらしきてんもんだい
公開天文台100周年に合わせて日本国内最初の公開天文台、倉敷天文台
かつやく ほんだ みのもん とうとりけんしゅっしん しょうがい
で活躍された本田 実さん（鳥取県出身）の生涯をふりかえります。

投影開始時刻	平 日	10：30 ～	なし	14：00 ～	16：00 ～
	土・日・祝	10：30 ～	12：30 ～	14：00 ～	16：00 ～

投影時間（約45分間） 前半（約20分）：専門職員による今夜の星空生解説
後半（約23分）：デジタル番組「星と出会う日々～本田実物語～」

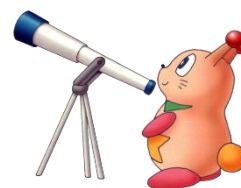
プラネタリウム観覧料 一般(高校生以上)300円、小中学生200円（入館料別）

※イベントや団体利用などで開始時刻が変わる場合があります。
最新情報は [HP](#) をご確認ください。

宇宙ふしぎ探検



「公開天文台100周年記念一斉観察会」



日時：2026年11月21日(土)

☆昼の部 11:15~12:15 昼間の水星と金星を観察

★夜の部 20:00~20:50 月・土星・天王星・海王星を観察

参加費：一般(高校生以上)600円、小人(小中学生)200円(入館料・観望料として)

定員：40人(事前予約が必要)

その他：天候不良時は、昼の部は中止、夜の部はプラネタリウム投影を行います

11月21日(土)に公開天文台100周年を迎えます。それを記念して一斉観察会を行います。今見ることで見える惑星を103cm望遠鏡で見ます。

すいせい 水星

基本情報

直径：約4880km
太陽からの平均距離：約8662万km
自転周期：約58.65日
公転周期：約87.97日



太陽系の惑星の中でいちばん内側を公転していて、最も小さな惑星です。水星には非常に希薄な大気が存在しています。見た目は月に似ています。昼と夜の温度差が激しく、その差は約600℃もあります。2018年に、日本も参加する「ベピコロポ計画」によって水星に探査機が送り出されました。

きんせい 金星

基本情報

直径：約12104km
太陽からの平均距離：約1億6176万km
自転周期：約243.02日
公転周期：約224.70日



金星は明けの明星、宵の明星として親しまれています。地球のすぐ内側を回る惑星で、大きさ、重さも地球とよく似ています。金星には非常に厚い大気があり、そのほとんどが二酸化炭素です。この二酸化炭素が温室効果をもたらし、金星の地上の表面温度は高温になっています。

てんのうせい 天王星

基本情報

直径：約51118km
太陽からの平均距離：約43億93万km
自転周期：約17時間
公転周期：約84.02年



天王星の存在が明らかになったのは望遠鏡が天体観測に使われるようになってからで、1781年にイギリスの天文学者ウィリアム・ハーシェルによって発見されました。空の暗い場所なら双眼鏡でも見つけることができます。1986年のボイジャー2号による観測によって、太陽系の惑星の中では唯一、横倒しになったような状態で自転している惑星であることがわかっています。

気軽に星空を
たのしもう！

キラットちゃんの耳より情報コーナー★
「祝！公開天文台 100 周年」

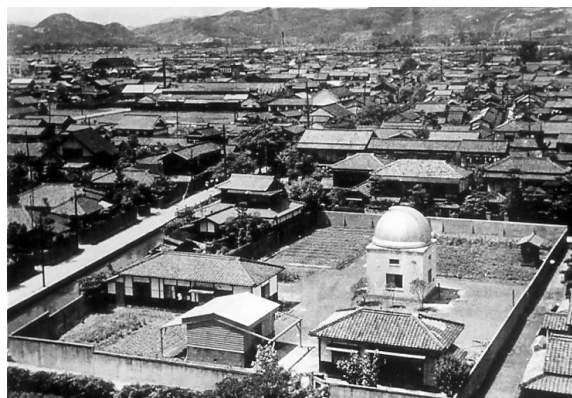


2026 年 11 月 21 日で日本に公開天文台ができてちょうど 100 年！当館も所属している

日本公開天文台協会（通称：JAPOS）では 100 周年記念事業を企画しています☆

公開天文台って？ ★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

公開天文台とは「天体観測設備を持ち、天体観望会など公開業務を行っている施設」、つまり「だれでも望遠鏡などをつかって星空を楽しむことができる施設」のこと。もともと天文台は天文学者などの研究者が研究するための施設でしたが、1926 年 11 月 21 日に岡山県倉敷市に日本初の公開天文台「倉敷天文台」が設立されました。その後日本国内に同様の施設が広まっていき、今では全国に約 300 か所の公開天文台があります。日本は天文台大国なのです！



戦後の倉敷天文台(提供:倉敷天文台)



公開天文台 100 周年記念事業 いろいろなイベントを開催中！ ★★★★★★★★★★

公開天文台 100 周年-特設サイト-

2026 年 11 月 21 日に公開天文台 100 周年を迎えるにあたり、「ほしぞら総選挙」や「みんなで見よう！メシエ天体」、「今、天文台にいます」掲示板など、さまざまな記念事業が企画されています！特設サイトをぜひチェックしてみましょう。



ほしぞら総選挙

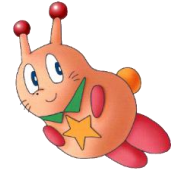
皆さんの好きな天体はなんですか？第 1 回として、JAPOS 会員向けの投票をおこないました。その結果を発表しております。また、第 2 回として誰でも投票ができる「第 2 回ほしぞら総選挙」を実施中です。

みんなで見よう！メシエ天体

「M78 星雲」って聞いたことないでしょうか？実は「M00」と呼ばれる天体は天文学者のシャルル・メシエがカタログにまとめたので「メシエ天体」と呼ばれ、「M1」～「M110」の 110 個あります。この中には星雲や星団・銀河といったいろいろな天体が含まれているのでぜひお気に入りのメシエ天体をさがして、美しい写真付きカードをダウンロードしましょう！

みんなで見よう！メシエ天体											
公開天文台 100 周年記念事業				公開天文台 100 周年記念事業				公開天文台 100 周年記念事業			
公開天文台	110	110	110	公開天文台	110	110	110	公開天文台	110	110	110
9172 人	110	110	110	83.4 人/天体	503 人	503 人	503 人	503 人	503 人	503 人	503 人
M1 (大星雲)	M2 (大星雲)	M3 (大星雲)	M4 (大星雲)	M5 (大星雲)	M6 (大星雲)	M7 (大星雲)	M8 (大星雲)	M9 (大星雲)	M10 (大星雲)	M11 (大星雲)	M12 (大星雲)
101 人	60 人	284 人	79 人	93 人	16 人	16 人	16 人	10 人	37 人	37 人	37 人
M13 (大星雲)	M14 (大星雲)	M15 (大星雲)	M16 (大星雲)	M17 (大星雲)	M18 (大星雲)	M19 (大星雲)	M20 (大星雲)	M21 (大星雲)	M22 (大星雲)	M23 (大星雲)	M24 (大星雲)
128 人	37 人	725 人	9 人	494 人	45 人	69 人	9 人	16 人	58 人	58 人	58 人
M25 (大星雲)	M26 (大星雲)	M27 (大星雲)	M28 (大星雲)	M29 (大星雲)	M30 (大星雲)	M31 (大星雲)	M32 (大星雲)	M33 (大星雲)	M34 (大星雲)	M35 (大星雲)	M36 (大星雲)
9 人	54 人	9 人	9 人	9 人	9 人	145 人	9 人	9 人	13 人	13 人	13 人

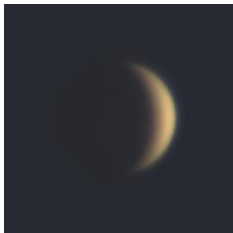
かつどうほうこく アストロ活動報告



9月にあった日々の出来事やちょっとした事件、イベントの様子をお伝えします。

にんケットぷち in 鳥取・佐治 2026 2026年9月5日(土)

イケハヤさんを講師に「生成 AI を活用したショートアニメ制作ワークショップ」が行われました。イケハヤさんが制作環境を整えて下さったおかげで、超初心者の私もキラットちゃんが登場するアニメを手軽に作ることができました！ 制作したアニメはこちら⇒



最大光度の金星 2026年9月19日(土)

13時ごろに雲の合間からなんとか撮影。金星の明るさは満ち欠けと地球からの距離によって変化します。最大光度の時はマイナス4.7等で、1等星の200倍近い明るさです。一番明るい時に欠けているのはなんだか不思議な感覚ですね。



画像はXなどで公開しています

久しぶりの観望会 2026年9月21日(月)・22日(火)

5連休後半は何とか晴れて、雲が多いながらも月などが見えました。9月は本当に晴れない日が多く、あまり星空を楽しむことができませんでした。シルバーウィークはたくさんの方にご来館いただき、後半は星空を見ることもできました。



火球（明るい流れ星） 2026年9月24日(木)

午前1時49分50秒頃（表示された時刻は3秒進んでいます）、カシオペア座を横切るように火球が映っていました！ 画面真ん中の右寄りに映っている明るい星が、ぎょしゃ座のカペラ（0等）なので、かなり明るかったと思われます。 映像はこちら⇒



第31回月まつり 2026年9月26日(土)

第31回月まつりは300人を超える方々にご参加いただきました。最初は雨でしたが、コスモスマルシェや工作、プラネタリウムや抽選会など、いろいろなコーナーで盛り上がりしました。途中からは雨もやみ、イベントの最後には何と月や土星も見えました

久しぶりの快晴 2026年9月29日(火)・30日(水)

9月29日と30日は快晴に恵まれ、特に30日は月が昇るまでの約1時間近くは満天の星が広がり、天の川もきれいに見えました。9月は晴れた日が少なかったですが、10月の秋晴れに期待しましょう！



カタリナ彗星 C46K1R1 2026年9月30日(水)

9月14日に発見され、22年弱の周期の軌道も計算されているカタリナ彗星を9月30日にやっととらえました。まだ正式な符号が付かない不思議な彗星です。（Ori）※10月8日に「C/2026 R2」という符号が付きしました。